

目 次

発刊にあたって	頭取	鈴木正二
監修を終えて		加藤俊彦
口 絵（本店全景，創立 100 周年祝典，現役員）		
凡 例		

本 編

序 論

新潟県内銀行の系譜と当行の特質…………… 3

1. 県内銀行の生成と系譜…………… 3
2. 当行の経営の特質…………… 7

第四国立銀行創立の背景……………11

1. 明治維新政府の諸政策……………11
明治維新政府の成立 政府の金融政策と銀行制度の導入
為替会社の設立と衰微 国立銀行の発足
2. 明治初期の新潟地方……………16
新潟県の誕生 楠本県令の財政政策 新潟町の発展
地主王国の成立 新潟為替会社の設立

第 1 部 第四国立銀行時代

第 1 章 創立と初期の経営……………39

第 1 節 創立までの経緯……………39

1. 創立の請願……………39
楠本県令の尽力 設立発起と認可

2.	第四国立銀行の創立	43
	株式の募集 創立総会の開催	
3.	開業免状の下付	45
	却下された資本金増額 頭取の変更 開業免状の下付	
4.	開業準備の進捗	48
	店舗の設置 銀行紙幣の下付 太政官布告の発布 開業検査と開業式	
第2節 開業後の経営困難		53
1.	初期の業務	53
	一般業務の状況 特殊業務の状況 初期の営業体制 事務処理の改善・整備 支店の業務	
2.	経営困難とその打開策	60
	経営困難の要因 経営困難の打開策 初代頭取 市島徳次郎	65
第3節 国立銀行条例改正後の当行の発展		68
1.	条例改正と国立銀行の乱設	68
	国立銀行条例の改正 国立銀行の乱設	
2.	明治前期の新潟県内産業と銀行	70
	農業中心の県内産業 本県の国立銀行の設立	
3.	条例改正と当行	74
	開業免状の下付と増資 八木頭取と経営方針の転換 業況の好転 東京支店の運営改善と増資	
第2章 発券銀行から預金銀行へ		83
第1節 国立銀行の転換と銀行業の発展		83
1.	明治10年代の銀行政策	83
	国立銀行条例の再改正 デフレ下の銀行	
2.	銀行条例制定と国立銀行の転換	86
	銀行条例、貯蓄銀行条例の制定 国立銀行の発展と転換	

3.	新潟県の経済・金融動向	89
	地主王国の形成と近代産業の発足 鉄道の発達	
	県内金融機関の状況	
第2節	デフレ期の経営	96
1.	条例の再改正と当行	96
	紙幣消却の開始 国庫金制度の実施	
2.	デフレ期の営業	97
	預貸金の動向 不況下の経営努力 商業金融方針の後退	
	収益状況の悪化	
第3節	預金銀行への足どり	103
1.	銀行機能の拡大	103
	増資と恐慌の影響 融資機能の拡大 民間預金の増加	
	資力の充実	
2.	普通銀行への転換	109
	営業満期処分法と当行 株式会社新潟銀行の誕生	
	相川支店の再開設と廃止	
第3章	主要業務の推移と株主・役員の変遷	113
第1節	主要業務の推移と構造	113
1.	預金業務	113
	預金の科目 御用預金と人民預金の推移	
	県内国立銀行との比較	
2.	貸出業務	120
	資金運用の変化と貸出 県内国立銀行との比較	
3.	為替業務	125
	コルレス網の拡大 荷為替の取扱い 県内国立銀行との比較	
第2節	株主・役員の変遷	131
1.	株主の構成	131
2.	役員の変遷	132
	第2代頭取 八木朋直	134

第2部 新潟銀行時代

第1章 産業資本の確立 149

第1節 明治後半期以後のわが国経済 149

1. 景気変動と産業の成長 149

景気変動と金融市場 資本主義経済の発展

2. 金融機関の発達 152

普通銀行の発展 特殊銀行の設立

第2節 新潟県の産業と金融機関の発達 158

1. 県内産業の発達 158

県内産業の展開と在来産業 石油関連産業の発展

2. 新潟県内金融機関の状況 165

県内銀行の急増 県内銀行の動静 県内銀行の諸計数

銀行同盟会と新潟市内の金融機関

第2章 新潟銀行時代の経営 177

第1節 新潟銀行の発足 177

1. 株式会社への改組 177

商号変更と新役員 諸規定と機構の整備

2. 経営体制整備の進展 181

初期の営業 経営体制の変化

3. 銀行恐慌期以後の当行 185

明治33, 34年の恐慌期の営業 日露戦争前後の営業

第2節 後半期の発展 192

1. 業務運営体制の強化 192

営業店検査の開始 常勤取締役制の採用

2. 明治40年代の経営 194

恐慌期の営業 営業方針の確立

3. 業容の拡大 198

慢性的不況と銀行合併 業容の拡大

第3章 業務の進展	203
第1節 店舗網の拡大	203
1. 営業店の増加	203
2. 新設店舗の概況	205
新発田支店・水原出張所 新津出張所 巻出張所 若松支店	
第2節 営業成績と銀行業務	212
1. 預金の推移	212
資金源泉の変化 預金業務の変化	
2. 資金運用の推移	214
資金運用と借入金 貸出金の特徴と変化 資金運用の構造	
3. 収益状況の推移	222
第3節 役員と株主の変遷	225
1. 役員の変動と特徴	225
2. 株主の変化	226
第3部 恐慌と銀行合同	
第1章 恐慌と銀行合同の進展	231
第1節 第1次世界大戦とその影響	231
1. 大戦のぼっ発とわが国経済の発展	231
大戦による好況 戦後の好況	
2. 金融界への影響	232
銀行の発展 増資と銀行合同 金融市場の発達	
金融関係法規の整備	
第2節 慢性的不況と銀行合同	236
1. 反動恐慌と関東大震災の影響	236
反動恐慌と金融界の混乱 関東大震災と金融措置	
2. 反動恐慌後の銀行合同と制度改革	238
合同政策の強化 貯蓄銀行法の制定 信託法, 信託業法の制定	

3.	昭和金融恐慌とその影響	240
4.	銀行法の制定と銀行合同	242
	銀行法の制定 銀行合同の進展	
5.	金融恐慌後の経済・金融情勢	243
	金解禁と世界恐慌 満州事変のぼっ発と金輸出再禁止	
	財政・金融政策の転換 農村対策の転換 跛行景気の進行	
	第2次低金利政策と金利平準化	
第2章	恐慌下の新潟県産業と金融業	249
第1節	新潟県産業の発展と変容	249
	産業構造の変化 近代的工業の展開 農村の窮乏	
第2節	新潟県金融業の動向	256
1.	反動恐慌と金融動向	256
	銀行の発展 反動恐慌の影響 預金金利協定の実施	
	減配の実行	
2.	昭和恐慌と金融動向	260
	昭和恐慌の影響 銀行経営の悪化 無尽業、信託業の変遷	
第3章	新潟県における銀行合同	267
第1節	新潟県の銀行合同の歩み	267
1.	明治時代、大正前半期（1～8年）の合同	267
	県内銀行の動静 弱小銀行の淘汰	
2.	大正後半期（9～15年）の合同	269
	合同の進展 貯蓄銀行法制定の影響	
3.	昭和初期（2～7年）の合同	274
	第2次合同の開始 県内主要銀行の合同状況	
4.	無資格銀行整理後（8～15年）の合同	277
	地方的金融統制の開始 1県1行主義への胎動	
第2節	当行の銀行合同の諸様相	279
1.	大正時代の当行の銀行合同	279
	合同の開始 合併の諸様相	

2.	昭和初期（2～15年）の当行の銀行合同	282
	相次ぐ合同 合併の諸様相	
第4章	当行営業の躍進	287
第1節	第四銀行に商号変更	287
	商号の変更 相次ぐ増資 当行の地位	
第2節	支店増設と本店新築	290
1.	支店の増設	290
	店舗網の拡大 住吉町支店の開設 津川支店の開設	
2.	店舗の新築	293
	本店の新築 支店の新築	
第3節	業務の展開	297
1.	営業の発展と業務の拡張	297
	資金量の増大 保有有価証券の増加 コール取引の活発化	
	社債の引受け	
2.	反動恐慌および関東大震災と当行	301
	反動恐慌と当行 関東大震災と東京支店 預貸金の停滞	
	本支店の営業状況 県本金庫事務取扱いの再開	
3.	昭和恐慌下の営業	308
	金融恐慌と当行 金融恐慌後の資金運用 農業恐慌と収益の低下	
	経費の節減と慎重な貸出方針	
4.	業況の推移	315
	資本金の推移 預金の推移 貸出の推移 有価証券の推移	
	収益状況の推移	
第4節	業務機構の改革と役員の変動	322
1.	業務機構の改革と諸制度の充実	322
	内規の改正と処務細則の制定 業務機構の改革	
	内部検査制度の充実 本支店協議会の開催	
2.	給与と福利厚生面の整備	325
	給与の改善と停年制の実施 懇話会と辛丑会	

3.	役員の変動	327
	頭取制の復活と専務の変動 行員出身役員誕生	
	合併による役員就任	
	第3代頭取 白勢春三	329
第4部 戦時経済下の当行		
第1章 戦時経済と金融統制 333		
第1節 戦時経済体制の進展 333		
1.	日中戦争のぼっ発と金融統制	333
	経済統制の展開 戦時金融体制への移行	
2.	太平洋戦争下の金融統制	337
	金融統制の強化 1県1行主義の実現 共同融資銀行と資金統合銀行	
	地方銀行の経営状況	
第2節 戦時下の新潟県経済・金融情勢 344		
1.	戦時統制下の新潟県産業	344
	商工業の企業整備 軍需産業の活況 農村経済の停滞	
2.	新潟県の銀行合同	348
	県内銀行合同の概観 長岡六十九銀行の新立 5行統合の成立	
	貯蓄銀行、信託会社の合併	
3.	新潟県内銀行の動向	357
	戦時経済統制の影響 県内銀行の経営状況	
第2章 戦時統制期の経営 365		
第1節 戦時金融体制下の業況 365		
1.	戦時統制経済への突入と当行	365
	預金1億円を突破 貸出の停滞 米穀配給統制の影響	
	店別預金増加目標額の設定	
2.	太平洋戦争下の当行	369
	合併による預貸金の増加 新種預金の創設と整理廃合 貯蓄銀行業務など新業務の開始 貸出業務の変容 敗戦直前直後の営業	

3.	業況の推移	378
	資本金の推移 預金の推移 貸出の推移 有価証券の推移	
	収益状況の推移	
第2節	店舗網の拡大	385
	出張所の新設 合併による店舗の急増 店舗の廃合	
第3節	諸制度の整備と役員の変動	389
1.	諸規定の整備と業務機構の拡大	389
	諸規定の整備 職制の改正 業務機構の拡大	
2.	当行の戦時非常対策	392
	当行の戦時非常措置 事務の簡素化 女子行員の活躍	
	戦時の諸手当	
3.	役員の変動	398
	白勢量作の頭取就任 5行統合による新体制	
	田巻堅太郎の頭取就任	
	第4代頭取 白勢量作	401
第5部	経済復興と再建整備	
第1章	戦後の混乱から再建へ	405
第1節	戦後のインフレと経済復興	405
1.	インフレの激化と抑制対策	405
	経済民主化政策と金融機関 インフレの高進とその対策	
	戦時補償の打ち切りと金融機関の再建整備	
	ドッジ・ラインとインフレの収束	
2.	朝鮮動乱ブームと経済自立	413
	動乱ブームとその影響 講和条約の発効と経済自立への道	
3.	金融制度の整備	415
	長期金融と中小企業金融機関の整備 地方銀行の新設と発展	

第2節	戦後における新潟県の産業と金融	419
1.	新潟県の産業動向	419
	敗戦直後の経済混乱と産業の復興 各種産業の不振 朝鮮動乱と産業界の活況 産業構造の変化	
2.	新潟県の農業経済の変化と農地改革	425
	農地改革と農業協同組合の設立 戦後農業の変貌	
3.	新潟県の金融機関の状況	428
	各種金融機関の創設と都市銀行の進出 県内金融機関の発展	
第2章	復興期の経営	433
第1節	戦後復興期における業況	433
1.	戦後混乱期の当行	433
	苦難の経営 各種の預金増強施策 企業融資の復活と貸出規制	
2.	当行の再建整備	439
	新旧勘定の分離と中間処理 最終処理と調整勘定 再建整備計画による増資	
3.	再建後の営業	445
	再建後の経営方針 定期性預金の増強 復興金融の増加	
4.	創立80周年と当行	450
	80周年への歩み 融資構造の変化 信託業務の推移	
5.	業況の推移	458
	資本金の推移 預金の推移 貸出の推移 有価証券の推移 収益状況の推移	
第2節	店舗網の整備拡充	467
	非効率店舗の廃合 簡易店舗の新設 店舗の整備充実	
第3節	業務機構の拡充と役員の変動	471
	本部機能の確立 行規の改編整備 職員の待遇改善 経営体制の強化と藤田頭取の就任	
	第5代頭取 田巻堅太郎	475

第6部	高度成長と当行	
第1章	経済成長と県内経済	479
第1節	高度成長経済と銀行	479
1.	昭和30年代の経済成長	479
	経済の高度成長 高度成長下の景気循環	
2.	産業構造の変化	482
3.	高度成長下の金融機関	484
	オーバーローンの激化 金融機関の相対的地位の変化	
第2節	新潟県経済の発展	488
1.	県内産業の発展と特質	488
	高度成長下の県内産業 産業構造の高度化	
2.	県内金融の動向	495
	店舗の増設 預貸金の動向	
第2章	高度成長と当行の経営施策	501
第1節	経営体制の整備	501
1.	経営組織の整備	501
	総合企画委員会の発足と機構改正 常務会, 常設委員会の設置	
	経営計画の進展	
2.	店舗網の整備充実	504
	店舗網の整備 県外への店舗進出 本店の新築と店舗の近代化	
3.	役員の異動	509
第2節	高度成長期における業況	510
1.	昭和30年代前半の営業	510
	堅実経営の保持 預金増強への努力 農村預金の後退と新種預	
	金の取扱い 堅実な貸出方針	
2.	創立90周年と当行	518
	積極策への転換 貸出構成の変化 大衆化指向の預金施策	
	90周年と預金1,000億円達成	

3.	業況の推移	528
	資本金の推移 預金の推移 貸出の推移 有価証券の推移	
	収益状況の推移	
第3節	事務の合理化・機械化の進展	535
1.	営業店事務の合理化	535
	事務規定の整備 事務処理の合理化 提案制度の実施	
2.	事務機械の導入と集中化	537
	窓口事務の機械化 事務の集中処理	
第4節	人事諸施策の推進	541
	給与体系の改善 教育訓練の強化 住宅施策と健康管理	
第7部	創立100周年への足どり	
第1章	開放体制下の経済と金融情勢	547
第1節	経済の国際化と金融再編成	547
1.	開放体制の進展	547
	開放体制への移行 大型景気の展開 円の切上げ	
	転機に立つ日本経済	
2.	金融行政の転換	552
	金融二法の制定 金融効率化行政の展開 地方銀行の業況	
第2節	新潟県経済の変貌と金融動向	560
1.	地域開発の進展	560
	産業構造の変貌 地域開発の展開 主要産業の動向	
2.	県内金融の動向	567
	店舗網の広域化 預貸金の動向	
第2章	経営近代化と100周年	571
第1節	経営体制の充実	571
1.	経営管理の近代化	571
	組織機構の分化・拡充 本部機構の再編成	

2.	経営基盤の拡大	575
	県外重点の店舗設置 県内支店の拡充	
3.	役員の異動	578
	強固な経営体制 亀沢頭取の就任	
第2節	営業活動の推進	581
1.	昭和40年代前半の営業	581
	業務推進体制の強化 大衆化施策の拡充 相次いだ災害と当行 資金運用施策の変化	
2.	営業の躍進	591
	100周年への基礎固め 大衆化商品の充実 融資基盤の拡大 地域社会への奉仕	
3.	為替業務の拡充	601
	内国為替業務の新展開 外国為替業務の進展	
4.	業況の推移	606
	資本金の推移 預金の推移 貸出の推移 有価証券の推移 収益状況の推移	
第3節	事務合理化と総合オンラインの開始	613
1.	事務合理化の推進	613
	事務管理体制の強化 営業店事務合理化の進展	
2.	EDPSの導入	617
	PCSからEDPSへ 事務センターの設置	
3.	総合オンラインの開始	620
	オンラインへの道 総合オンラインの始動	
第4節	人事政策の新展開	624
1.	能力主義管理の推進	624
	新資格制度の採用 要員管理の適正化 職場面接制度の実施 週休2日制,連続休暇制の実施	
2.	研修体制の充実	627
	職場内研修の推進 研修体系の整備	

3.	福利厚生	629
	健康管理と厚生施設の充実 年金・保険の充実と職員持株会の発足	
4.	企業内組合	631
	第四銀行健康保険組合 第四銀行従業員組合	
	第6代頭取 藤田 耕二	633
	第7代頭取 龜沢善次郎	634
第3章 創立100周年を迎えて		637
第1節 創立100周年を旨として		637
	鈴木頭取の就任 100周年預金増強運動の展開 預金目標5,000億円の達成 増資と東証第2部上場	
第2節 創立100周年の記念行事		642
	100周年記念事業 100周年記念祝典	

余 録

金兌換の失敗	16	昇給・賞与にまつわる話	247
楠本県令の逸話	20	今町銀行の取付け	284
新潟為替会社の放漫経営	25	行員が洋服を着るように なったキッカケ	301
貸金会社の構想	41	窓口対応心得	307
銀行回状	44	土曜半休問題と営業時間	311
誓 詞	47	強敵、農協の出現	342
簿記法草稿	51	織物機械の供出	347
罰金で儲けた話	54	5行統合にまつわる話	363
開業当初の月給と勤務時間	57	馬小屋改造の軍需工場	376
銀が行く看板	61	“月月火水木金金”	394
本店の新築	80	戦時の物資節約	395
アラビア数字の使い始め	115	風よ心して吹け	397
「厘」位の廃止	175	蠅も食糧不足	399
賞与金	179	日銀借入れは恥辱	451
創立35周年記念祝典	190	朝令暮改の金融緊急措置令	466
預金の取扱い手続き	193		

合併銀行編

合併銀行小史	667
合併銀行所在地図	
当行沿革系統図	

付 編

定款，役員，本部，営業店，成長の跡	
財務諸表	907
年 表	945
あとがき	

凡 例

1. 本書の内容は、当行設立時から昭和48年11月までとしたが、一部12月末まで延長した箇所もある。なお、部ごとにその年代を示してあるが、この表示に拘束されない箇所もある。
2. 用語については、当用漢字、現代かなづかい、新送りがなによったが、固有名詞、金融上の用語など例外としたものもある。なお、引用文はできるだけ原文のままを使用した。
3. 人名は、敬称を省略した。
4. 法人名は、必要に応じ株式会社、合資会社などを付した。
5. 資料の出所は、できるだけ注記したが、出所を示していないものは、当行の内部資料である。
6. 統計表中、「0」は単位未満の計数、「—」は皆無または該当数字なし、「…」は計数未詳のものである。

(本史の題字は、創立時の定款から集字した。)